

2024 年度 事業報告書



JOYJOY プロジェクトのスタッフたち
(バングラデシュ)

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 中期計画における位置づけ	3
3. 海外諸活動	3
[3 - 1] 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	3
(2) 新規ワーカー	5
(3) 短期ワーカー	5
[3 - 2] 奨学金事業	5
[3 - 3] 協働プロジェクト	14
(1) 第二期シロアムプロジェクト	14
(2) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	15
(3) HOPE プロジェクト	16
[3 - 4] 災害救援復興支援	17
(1) ミャンマー避難民支援（タイ・ミャンマー国境地帯）	17
4. 国内諸活動	18
[4 - 1] 国際保健人材育成	18
[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	19
[4 - 3] マーケティング	22
5. 運営体制	25
[5 - 1] 社員総会	26
[5 - 2] 理事会	26
[5 - 3] 委員会	27
[5 - 4] 第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議	28
[5 - 5] 事務局	29
6. 社員会員・サポート会員の現状報告	30
7. 2024 年度の主な動き	31

1. 今年度の歩み

常務理事 大友宣

そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。(ルカによる福音書 24 章 23 節)

世界中で選挙がおこなわれていました。平和で民主的な世界は実現可能なのかどうかがますます混沌となっています。地球温暖化による激しい気候変動も続いています。世界中の戦争もおさまることがありません。今も人びとは取り残されています。

教会においても、会社においても、社会事業においても、「原点」はいつも重要です。特に社会の変化が激しく、翻弄されながらも組織体を変えていかなければならないときは、「原点」を見つめ直す必要があります。聖書はイエスが死んでから大混乱の中にあった弟子たちが、イエスの復活の証人となっていき、教会が作り上げられていく様子を書き記しています。福音記者ルカは、『イエスは生きておられる』！というシンプルで力強い「原点」によって、弟子たちが立ち上がっていく様を生き生きと描いています。今年度は JOCS5 カ年計画の 2 年目でした。「原点」をしっかりと見つめ直す年度でした。5 年後 (2027 年度) の JOCS のビジョンを「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」と設定し、下記の 3 点に重点的に取り組んでいます。

1. 前半 2 年間では JOCS の変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあった JOCS の組織や活動の変革を検討します。
2. 後半 3 年間では、それに基づき JOCS の組織と活動の変革を開始します。
3. 小さく弱い呼び声を発する存在に寄り添い、呼び声を多くの人々と分かち合い、呼び声に応える器となります。

計画に基づき、第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議を実施しました。これまで約 10 年に 1 度開催されてきたこの会議は、活動の原点を確認し、JOCS の活動の方向性を定め、その時代にあった活動の原動力となってきました。今回も理事、事務局員、現・元ワーカー、準備委員、ゲストなどあわせて 32 名が集まり、JOCS の「原点」を確認しながら、祈りのうちに活発な議論がおこなわれました。今後「呼び声に応える器となる」変革が開始されます。

岩本直美ワーカーは、バングラデシュ・ディナジプールで知的障がい者のためデイケアを運営しています。地域に住む知的障がい者とその家族たちとともに生き、ともに祝福されています。一時体調を崩した時期もありましたが、回復し感謝です。

奨学生については、現地で学び、現地のために働く奨学生のために、支援を継続することができました。事務局員がタンザニアに出張し、モニタリングを実施することができ、各団体の事情を知ることができました。奨学生たちが送ってくださる「ものがたり」は会

員への大きな力になっています。

協働プロジェクトはケニアのシロアムプロジェクト第2期として、2名の短期専門家（作業療法士、理学療法士）の派遣をし、現地に大きなインパクトがありました。タンザニアのママ・ナ・ムトプロジェクトは今年度まで延長フェーズを実施し最後のまとめにかかっています。ウガンダでは若年妊娠のリスクから解放されるためのHOPEプロジェクトが開始されました。どの事業も女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。現地の団体と協働し、ともに成長することができました。

JOCSではワーカー派遣、奨学金、協働プロジェクトの3事業をおこなっています。3事業が連携できるように模索しています。

災害復興支援ではタイ・ミャンマー国境地帯での避難民支援活動へ5回にわたり支援をおこないました。今後に向けてプロジェクト化することができないか模索しています。

ワーカーを発掘・育成するための勉強会はオンラインで定期的に行われ、広範囲な地域から参加者を集めることができています。スタディツアーは今年度実施することができませんでした。

2024年度も使用済み切手運動を継続しています。ボランティアの方々のお働きに感謝です。国内活動は対面の活動をおこないつつ、オンラインでの活動も併用しています。創立60周年を記念して、元奨学生の現在の働き、現在学んでいる奨学生の様子などの動画を制作いたしました。2025年度広報に活用します。

これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。今年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感してさまざまな形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2024年度は5カ年計画2023の2年目であった。5カ年計画2023では「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンのもと、最初の2年でJOCSの変わらないミッションを再認識し、時代や地域の変化にあったJOCSの組織や活動の変革を検討することとなっていた。その計画に従い、2024年度は海外保健医療協力者会議を開催した。

海外諸活動は、奨学金事業では、以前から支援している奨学生の継続支援に加えて新規の奨学生の採用もおこなった。

国内では、教会ではまだ感染対策を続けているところも多く、制限のある中での教会訪問での活動報告会になった。使用済み切手整理のボランティアの活動は、コロナ禍の影響を引きずっており、新たなボランティアの募集が困難であった。

5カ年計画2023ではミッションに共感し、活動を広げ、参画してくれる人（会員・寄付者）を増やすことを目指しているが、未だ会員数は減少傾向にある。

3. 海外諸活動

長期ワーカーは1名派遣、協働プロジェクトは3件実施、奨学金事業では89名を支援した。出張による現地モニタリング、短期専門家派遣も実施した。災害救援復興支援はタイ・ミャンマー国境地帯のミャンマー避難民への支援を5件実施した。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュにはPIME(ミラノ外国宣教会)のJOYJOYプロジェクトに岩本直美ワーカーを引き続き派遣した。2024年度に予定していた新規のワーカー派遣は2025年度に変更となり、短期ワーカー派遣はなかった。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年12月

活動概要：PIMEが実施する「JOYJOYプロジェクト」（現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) 組織管理と運営

① スイハリ小教区開発計画に伴うデイケア施設の移転

スイハリ小教区のミッション開発計画に協力し、デイケア施設を小教区所有の女児の寄宿舍から男児の寄宿舍内へ3月に移転した。小教区による修繕は、JOYJOYプロジェクト側からの要望が多く取り入れられ、物的環境は大変改善した。

② 人事体制の強化

JOYJOYプロジェクトの要望を受け、PIMEの協力団体であるALP(The PIME Lay Association:ミラノ外国宣教会信徒会)から障がい児教育専門家が1カ月派遣された。この専門家には特にコミュニケーション方法についての指導を受けた。ほかには、短期滞在の栄養専門家から、栄養価の高いおやつについて指導を受けた。

また、チーム全体で活動を遂行できるよう、ケアスタッフ10名に適性に応じて漸次職責を与えた。その結果、デイケア活動はスタッフだけで遂行できるようになった。

③ バングラデシュ国内ファンドレイズと啓発活動

県知事より90枚の毛布の支給を受けた。またスイハリ小教区入り口前の国道の安全対策案を知事に申請し受理された。デイケア施設の近場にある精米工場より新たに米50キロの支給を受け、合計150キロを毎月受給できるようになった。

2) 実施した活動

JOYJOYプロジェクトの支援対象児は前年度より8名増え現在53名となっている。このうちデイケアでの支援対象児は31名で、あとの22名は家庭訪問や特別行事への参加、また家族の集いなどを通して支援している。

① デイケア

週4日一日平均23名の幼児・児童が継続して集い、毎日7台の電動三輪車で送迎をおこなった。政情の不安定な時期も閉鎖することなく、子どもやスタッフの安全を配慮しながら活動を続けた。

② 家庭・地域訪問

ケアスタッフのうち8名が継続して、週2日家庭訪問をおこなった。訪問訓練の日時を設定し定期的に訪問を続けたことで、対象児や家族との信頼関係が深まった。

③ 啓発

2度実施した市内の児童公園へのお出かけプログラムでは、公園を訪れる家族とジョイジョイの子どもたちについて自然な対話が生まれた。イスラム教の宗教指導者が運営する児童養護施設への訪問を予定していたが、寄宿舍は実際青年期の男性のみであること、また大学の試験なども重なり実施には至らなかった。ヒンドウ教のドウルガ祭りへの参加は地域の人たちから歓待され、その機会に村に暮らす障がいのある子どもの紹介を受けた。電気自動車でのデイケアの子どもたちの毎日の送迎は、市内や近隣住民の何よりの良い啓発となった。

④ 医療および社会福祉支援

新たにディナジプールの病院に赴任してきた小児精神科医の協力を得て、障がい者

手当受給のための診断書を必要とする子どもが、大変速やかに無料で診断書を受理できるようになった。診療、内服治療、補食、補装具などについても、家庭の状況に応じて継続して支援をおこなった。

⑤特別行事

年間予定に沿い新年の遠足、母の日のお祝い、JOYJOY2周年記念、ドウルガ祭り、ピクニック、クリスマス会などを実施した。JOYJOY 文化際には市内外の障がい分野5団体と寄宿舎の女児たちも参加した。

⑥親の会

母親の会は年間の行事参加を除き、ほぼ隔月で実施した。父親の会では子どもたちの交通安全対策と、イスラム教断食月中の喜捨寄付増額について話し合われた。

3) 岩本直美ワーカー終了時評価

岩本ワーカーの終了時評価を2月に実施した。活動はPIMEにも受益者にも、さらにはスタッフにも肯定的に受け止められていることが確認された。また、JOYJOYプロジェクトスタッフのトレーニングなどのために、岩本ワーカーのさらなる活動の必要性が認められた。

評価の結果に基づき、JOCS 理事会では岩本ワーカーの現任期の6カ月の延長を決定した。

(2)新規ワーカー

2024年度は医師の城田ふみ氏を新規ワーカーとして派遣する予定であったが、事前研修などの準備があるため、2025年度の派遣とすることになった。派遣候補国は協力団体のニーズ調査などに基づきタンザニアとなった。

(3)短期ワーカー

2024年度の短期ワーカー派遣はなかった。

[3 - 2] 奨学金事業

2024年度は、インドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計7カ国の89名を支援した。タンザニアは渡航によるモニタリングを実施した。2025年度の新規募集に備えて、協力団体の見直しをおこなった。

(1)インドネシア

GKST、GMIM、ICAHS 傘下の保健医療施設で働く職員16名を支援した。

インドネシアでは、規模やレベルに応じた病院のカテゴリーの認証を取得することが義務づけられている。配置すべきスタッフ数や資格の基準が細かく規定されており、順守できない場合は、政府から病院認証を取得できない。そのため、認証取得に必須となる人材

面の基準を満たすための資格取得を希望する申請が続いている。

2024 年度の新規採用選考では、病院存続に関わる人材として病院管理学修士号と看護麻酔師の資格取得希望者を採用した。

GKST シナルカシ病院は、2025 年 1 月の新病棟への移転に伴い病床数が増加し、病院のカテゴリーがより上位のものへと変更されたため、規定に基づく専門医の雇用および育成が急務である。キリスト教系の私立病院は、外部からの雇用が難しい現状を踏まえ、専門医や専門看護師・助産師の確保を目的として、長期的な雇用が期待できる地元出身者を優先的に育成している。GMIM カローランアムラン病院も同様に、専門医（特に外科医、眼科医、小児科医、麻酔科医）と放射線技師や臨床工学技士などの有資格者の育成が求められている。ICAHS 傘下の離島にある病院は人材不足が課題であり、人材育成の重点ターゲットエリアとしている。

- * GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)
- * GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)
- * ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2) カンボジア

AVPP 下の CCHS を通じて、2024 年度は 1 名の奨学生を採用した。カンボジアからの申請は 2020 年度以来となる。JOCS が以前実施した協働プロジェクト (SALT プロジェクト) で共に働いたバタンバン州の保健センターのスタッフが看護師資格の取得を目指している。

- * AVPP (Apostolic Vicariate of Phnom-Penh : プノンペン使徒代理区)
- * CCHS (Catholic Community Health Services : カトリックコミュニティ保健サービス)

(3) ネパール

HDCS、TLMN、UMNMDT 傘下の病院で働く保健医療従事者および職員 21 名を支援した。

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、地理的・経済的な理由から人材の雇用が難しく、その施設がある地域出身のスタッフの育成に力をいれている。ネパール政府が定める専門医、看護師等それぞれの職種の人員配置の規定に沿った各病院の人材開発の要望に応えるために、医師の専門医資格、看護師や臨床検査技師の学士号、補助看護助産師の正看護師の資格取得を支援した。

- * HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO

* TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO

* UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO。Okhaldhunga Community Hospital、United Mission Hospital Tansen を傘下にもつ。

(4) バングラデシュ

KHCP で働く 4 名を支援した。

KHCP では、創立者のベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディック*の資格取得を目指す。2024 年度は、2 名が資格を取得した。

* KHCP (Kailakuri Health Care Project : カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

* パラメディック : 医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう

(5) ウガンダ

2 つの協力団体、UPMB と SRD を通じて、21 名を支援した。

2024 年度に研修を終えた奨学生は 8 名だった。2024 年度、UPMB からは看護師、助産師、麻酔科医、臨床検査技師の育成要請、SRD からは医師、歯科医、画像診断技師の育成要請があった。それぞれの要請に応じ、UPMB から 6 名、SRD から 3 名の奨学生を採用した。

* UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、330 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

(6) ケニア

協働プロジェクトの協力団体である The Garden of Siloam を通じて、2024 年度は 2 名の奨学金申請があった。2018 年度以来となる。2 名採用したが、そのうちの 1 名については、シロアムの園退職にともない辞退の連絡があった。

* The Garden of Siloam : シロアムの園

(7) タンザニア

TAHO 傘下の保健医療施設で働く職員 25 名を支援した。

TAHO 傘下の保健医療施設では、基本的な短期研修を受けただけで、公的資格を持た

ずに医療助手として働いている職員が多い。またすべての有資格職種において、政府が定める職員数に足りていない。各保健医療施設のニーズに応じて、医師、看護師および薬剤師の資格取得の支援と、病院の診療の質向上に必須である心臓超音波および心電図検査の短期研修の支援をした。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

2024 年度奨学生一覧

インドネシア（16 名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月～ 2025 年 08 月
ボランティア	24	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月～ 2024 年 07 月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 07 月～ 2025 年 07 月
ボランティア	23	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020 年 08 月～ 2025 年 07 月
看護師	47	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020 年 09 月～ 2024 年 06 月
医師	37	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（小児科専門）	2022 年 02 月～ 2025 年 12 月
助産師	33	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023 年 03 月～ 2025 年 09 月
看護師	37	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2023 年 02 月～ 2025 年 02 月
医師	36	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学（内科専門）	2023 年 01 月～ 2027 年 12 月
専門看護師	41	男	ICAHS Mojowarno Hospital	看護学	2023 年 08 月～ 2025 年 08 月
医師	33	男	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（眼科専門）	2024 年 01 月～ 2026 年 01 月
ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	歯学	2023 年 08 月～ 2028 年 07 月
助産師	38	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023 年 09 月～ 2026 年 08 月
看護師	47	女	ICAHS Reksa Waluya Hospital	看護学	2024 年 05 月～ 2025 年 12 月
病院管理	38	男	GKST Sinar Kasih Hospital	病院管理学	2024 年 10 月～ 2025 年 03 月
ボランティア	19	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2024 年 07 月～ 2028 年 06 月

カンボジア（1 名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
ボランティア	21	女	AVPP Welcome Shelter for the sick	看護学	2024 年 05 月～ 2026 年 12 月

ネパール（21 名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
臨床検査技師	33	男	HDSCS Namuna Community Hospital	臨床検査学	2022 年 09 月～ 2026 年 08 月
看護教師	37	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022 年 05 月～ 2024 年 05 月

2024 年度奨学生一覧

看護師	30	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021 年 12 月～ 2024 年 12 月
看護師長	49	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022 年 09 月～ 2024 年 09 月
看護師	30	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022 年 05 月～ 2024 年 05 月
看護師	28	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021 年 12 月～ 2024 年 12 月
看護部長	36	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2022 年 04 月～ 2024 年 04 月
看護教師	47	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 04 月～ 2026 年 09 月
補助看護助産師	29	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023 年 01 月～ 2025 年 01 月
看護師	27	女	Okhaldhunga Community Hospital	助産学	2022 年 12 月～ 2025 年 12 月
医師	30	男	United Mission Hospital Tansen	医学（麻酔学専門）	2023 年 05 月～ 2025 年 04 月
医師	28	男	TLMN Anandaban Hospital	医学（整形外科・外傷外科学専門）	2023 年 04 月～ 2026 年 04 月
看護師	27	女	HDCS Namuna Community Hospital	看護学	2022 年 09 月～ 2026 年 09 月
補助看護助産師	26	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023 年 11 月～ 2025 年 10 月
臨床工学技士	37	男	United Mission Hospital Tansen	臨床工学	2024 年 04 月～ 2027 年 04 月
医療事務スタッフ	23	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	理学療法学	2023 年 06 月～ 2027 年 12 月
看護師	30	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2025 年 02 月～ 2027 年 02 月
補助看護助産師	26	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2024 年 10 月～ 2026 年 10 月
補助看護助産師	37	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 09 月～ 2027 年 09 月
補助看護助産師	29	女	Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2024 年 08 月～ 2027 年 08 月
看護師	31	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2025 年 02 月～ 2027 年 02 月

バングラデシュ（4 名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
パラメディック	37	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023 年 01 月～ 2025 年 12 月
パラメディック	50	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2024 年 01 月～ 2026 年 12 月

2024 年度奨学生一覧

ウガンダ（21 名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
准看護師	35	女	SRD St. Paul's Health Center IV	医学	2022 年 01 月～ 2024 年 12 月
その他	34	女	SRD Rwesande Health Center IV	超音波診断学	2021 年 08 月～ 2024 年 07 月
看護助手	41	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022 年 02 月～ 2024 年 07 月
医療事務スタッフ	23	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023 年 01 月～ 2027 年 04 月
准看護師	29	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学・公衆衛生学	2023 年 03 月～ 2024 年 06 月
准看護師	27	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2023 年 03 月～ 2026 年 03 月
医師補	35	女	SRD Kinyamaseke Health Center III	放射線学	2024 年 01 月～ 2024 年 09 月
准看護師	30	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2023 年 07 月～ 2024 年 12 月
准看護師	35	男	UPMB Kiwoko Hospital	栄養学	2023 年 08 月～ 2025 年 08 月
准助産師	30	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	助産学	2023 年 07 月～ 2024 年 12 月
准看護師	32	女	UPMB Ngora Freda Carr Hospital	看護学	2023 年 07 月～ 2024 年 12 月
医師	32	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2023 年 08 月～ 2026 年 08 月
助産師	39	女	SRD Kagando Hospital	医学	2025 年 01 月～ 2028 年 06 月
助産師	35	女	SRD Nyabugand Health Center III	画像診断	2024 年 08 月～ 2028 年 08 月
臨床検査技師助手	33	女	SRD St.Paul's Hospital	歯科公衆衛生学	2024 年 08 月～ 2027 年 07 月
准看護師	32	女	UPMB Diocese of Northern Uganda / Wii Anaka Health Center II	看護学	2024 年 07 月～ 2025 年 12 月
准助産師	27	女	UPMB Ebenezer SDA Health Center III	助産学	2024 年 06 月～ 2025 年 11 月
准看護師	26	女	UPMB Kinkiizi Diocese / BURORA Health Center II	看護学	2024 年 07 月～ 2025 年 12 月
医師補	32	男	UPMB Kinkiizi Diocese / Nyakinoni Health Centre II	麻酔学	2024 年 06 月～ 2026 年 05 月
臨床検査技師助手	27	男	UPMB North Karamoja Diocese / KODO Health Cetnre III	臨床検査学	2024 年 08 月～ 2027 年 07 月
准看護師	32	女	UPMB Ruharo Mission Hospital	助産学	2024 年 06 月～ 2025 年 11 月

2024 年度奨学生一覧

ケニア（1名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
カウンセラー	29	女	The Garden of Siloam	児童発達学	2024 年 08 月～ 2026 年 07 月

タンザニア（25名）

職 業	年 齢	性 別	所 属 団 体	研 修 内 容	研修期間
医師補	47	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018 年 10 月～ 2024 年 11 月
医師補	41	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018 年 08 月～ 2024 年 11 月
医療助手	26	男	TAHO Fr.Bolle Memorial Health Center	医学	2019 年 09 月～ 2024 年 09 月
医療助手	34	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020 年 11 月～ 2025 年 11 月
医師補	31	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020 年 11 月～ 2025 年 11 月
医療助手	23	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	22	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	29	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療助手	32	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医療事務スタッフ	33	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021 年 11 月～ 2024 年 11 月
司祭・チャプレン	37	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2024 年 09 月
医師補	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021 年 10 月～ 2026 年 09 月
医師補	26	女	TAHO Fr.Bolle Memorial Health Center	医学	2022 年 10 月～ 2027 年 10 月
医療助手	33	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022 年 10 月～ 2025 年 10 月
医療助手	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022 年 10 月～ 2025 年 06 月
准看護助産師	29	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2022 年 10 月～ 2024 年 10 月
准看護助産師	34	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学（眼科）	2022 年 10 月～ 2026 年 10 月
医療事務スタッフ	36	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	薬学	2022 年 09 月～ 2025 年 08 月
医師補	28	男	TAHO Ussongo Health Center	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2023 年 10 月～ 2026 年 10 月
医師補	32	男	TAHO Rosemystica Dispensary	医学	2023 年 10 月～ 2028 年 10 月
医療助手	20	女	TAHO Ussongo Health Center	医学	2024 年 11 月～ 2029 年 11 月

2024 年度奨学生一覧

放射線技師	36	女	TAHO Ndala Hospital	心臓超音波・心電 図検査	2024 年 10 月～ 2025 年 01 月
薬局スタッフ	23	女	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2024 年 10 月～ 2028 年 10 月
准看護師	34	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2024 年 10 月～ 2025 年 10 月

* 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

* 掲載は契約ベース。研修がまだ開始していないなどの理由で契約をまだ締結していない奨学生は掲載していない

[3 - 3] 協働プロジェクト

ケニアの第二期シロアムプロジェクトには、2名の短期専門家を派遣した。タンザニアのママ・ナ・ムトプロジェクトは2024年度で終了し、後継のプロジェクトを企画形成した。ウガンダのHOPEプロジェクトは1年目の活動を終了し2025年度に2年目を実施することとなった。

(1)第二期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ郡 カブク村
プロジェクト期間: 2023年4月1日～2028年3月31日 (5年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたちおよびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュニティの住民、その他の関係者（地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンブ郡内の地域）
プロジェクト目標: シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される。

2024年度は、短期専門家派遣による現地での直接指導と日本からのオンライン指導を通して、療育サービス、社会的支援など、シロアムの園における包括的ケア事業の強化を支援した。

4月から6月に原田真帆短期専門家（特別支援教育専門家）が、オンラインにてアセスメントに関して指導した。シロアムの園の教育担当スタッフが事前に作成したIEP（個別教育計画）案をもとにオンライン指導を計6回おこなった結果、担当スタッフの、アセスメント結果に基づいたIEPを作成するスキルが向上した。

同じく4月から6月に 山内章子短期専門家（理学療法士）が、オンラインにて理学療法スタッフに理学療法の指導をおこなった。歩行分析およびケーススタディについての指導とともに、書籍を用いた勉強会をおこなった。

5月には河野真短期専門家（作業療法士）をシロアムの園に1週間派遣した（第一期シロアムプロジェクト期間を含めて2回目の派遣）。2023年10月末に開設されたアンガザクラス（成人移行期クラス）を中心に、指導や助言をおこなった。障がい児においてはある年齢に達すると機能改善の余地が少なくなることをデータを示しながら説明し、療育スタッフ、教育スタッフとしての新たな役割について助言した。またアンガザクラスとは別の成人移行期クラスとして、食事や入浴などの介助のほか、それぞれの子どもたちにあった日々の生活支援をおこなうデイケアサービスのクラスの新設を提言した。

9月に山内章子短期専門家（理学療法士）をシロアムの園に3週間派遣（第一期シロア

ムプロジェクト期間を含め5回目)し、理学療法スタッフに理学療法の指導をおこなった。これまでの指導内容の習得度の確認とセラピーを通しての演習、テキストを使った座学等をおこなった。既存の学習内容の定着にはトレーニングの積み重ねが必要なことがわかった。ムハンジ氏は2025年2月中旬まで自主トレーニングをおこない、同年2月末から3月にかけて山内専門家による習得度確認のための評価セッションが2回実施された。

JOCSは2024年5月に現地に赴き、活動を視察し、受益者とスタッフにインタビューをした。その結果、障がい者に対するサービスを提供している他の機関について調査し連絡を図るなど、地域全体を巻き込んだ包括的ケア向上への取り組みが順調に進んでいることが分かった。また、グループセラピーにおいては保護者同士が気持ちを共有する時間が設けられており、障がい児をもつ保護者が孤立しない環境が整えられていることを確認した。どの活動においてもスタッフがキリスト教の教えに基づき、愛をもって子どもたちに接している様子が見られた。

(2) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア

活動地域 : タボラ州タボラ大司教区

プロジェクト期間 : 2018年4月～2025年3月(7年間)

協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

受益者 : TAHO とその傘下の10の保健医療施設(病院や診療所など)

プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

ママ・ナ・ムトプロジェクトは、2023年3月に終了の予定であったが、新生児蘇生法と分娩期の管理に必要とされる技術の適切な実施が定着し、3病院に導入した分娩監視装置が分娩管理に積極的に活用されるようになるために2年間延長した。2024年度は母子保健関連活動の持続性と技術の標準化の担保を目指して、各施設で主体的に研修を実施できるトレーナーを育成する活動を実施した。主な活動は次の2つである。

① 新生児蘇生法と分娩期の管理

2022年度から取り組んできた新生児蘇生法と分娩期の管理の知識技術習得のため、各施設の医療スタッフが短期の専門研修を受講し、その後セミナーや巡回指導(以下、スーパービジョン)を通じて技術力の向上につとめてきた。2024年度は、専門研修を受けた医療スタッフがトレーナーとして自施設で指導ができることを目指した。そのため、各施設で研修が主体的に実施できるよう体制を整えた。

具体的には、年4回実施されるスーパービジョンの機会を用いて、専門研修を受けた医療スタッフをスーパーバイザー(指導役)として配置した。スーパーバイザーは、各施設の分娩期管理や新生児蘇生の実技トレーニングを評価し、改善点を指摘するな

どの技術指導をおこない、次回のスーパービジョンまでのアクションプランの助言をおこなう。指導的立場を担うことによって、トレーナーとしての技術の向上だけでなく、分娩期管理や新生児蘇生の技術力のさらなる向上にもつながった。また、他施設の実情を把握することによって、励ましあい協力しあう状況が生まれ、自施設での主体的な研修継続に対する意欲も一層高まった。

集中研修を受講した8施設12名のうち、10名が継続して各施設においてトレーナーとなり、研修を計画、実施している。

②分娩監視装置の活用促進

分娩監視装置を導入した3病院を対象に、分娩期に継続して活用することを目指し、トレーナー育成の研修を実施した。元ワーカーである雨宮春子助産師から装置の操作方法およびデータの判読方法の研修を受けた医療スタッフ10名を対象に、習得した知識や技術を復習する研修と、さらに高度な技術の習得を目指す研修の2段階に分けて実施した。研修は少人数での実習やケーススタディを中心におこなわれ、グループ内での振り返りを通して、各自が抱えていた課題に対する理解を深めることができた。この実践的なアプローチにより、知識と技術の習得が効果的に進められた。

研修を受けた医療スタッフがトレーナーとしての役割を担い、各施設でスタッフ向けの研修を実施した。その結果、分娩時には積極的に分娩監視装置が使用されるようになった。

(3)HOPE プロジェクト

対象国 : ウガンダ

活動地域 : カセセ県

プロジェクト期間 : 2024年4月1日～2028年3月31日 (4年間)

協力団体 : SRD(South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ教区)

受益者 : SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒

プロジェクト目標 : SRDが運営する学校および子ども支援センターに通う生徒が若年妊娠のリスクから解放されるようエンパワメントされる。

2024年4月から2028年3月までの4年間のプロジェクトの初年度を、パイロット期間として実施した。8施設を対象に、以下の活動を実施した。

①若年妊娠について、生徒たちが置かれている現状の調査

インタビュー調査等を通して、若年妊娠の発生件数、10代における性に関する状況を調査した。8施設すべてにおいて若年妊娠が発生しており、またインタビューした生徒の半数以上が異性との性的関係を経験していることが分かった。一方で、生徒たちは性に関する正しい知識をもっておらず、また性について話し学びあう環境が各施設に整えられていないことが分かった。

②若年妊娠を含む性について話し、学びあえる環境を整える活動

- ・ 性に関する教材を作成し、全施設の生徒たちに配付した。
- ・ 生徒たちとその保護者に対して若年妊娠のリスクに関する意識啓発集会を開催した。
- ・ 性について学び、若年妊娠を防ぐための活動をおこなうクラブ、True Love Waits Club を各施設に発足させた。
- ・ 各施設の True Love Waits Club メンバー内にピア・カウンセラースキルを持った生徒 10 名を育成し、同世代の若年妊娠に関する相談に応じられる環境を整えた。
- ・ 各施設に“性に関する情報・教育・相談コーナー”を設置し、True Love Waits Club クラブメンバーが打ち合わせ等に利用できるように整備した。
- ・ 生徒たちとその保護者を対象に、若年妊娠について話し合う対話集会をそれぞれ開催した。

これらの活動を通して、若年妊娠のリスクを含む性に関する知識が対象施設の生徒たちに浸透・定着するとともに、リスクから身を守るための能力が高まっていることが明らかになった。

* HOPE (Health education On Preventing Early pregnancy : 若年妊娠予防のための健康教育)

[3 - 4] 災害救援復興支援

ミャンマーのクーデターによるタイ・ミャンマー国境地帯への避難民の支援のため、タイの協力団体の医薬・食料品支援要請に 5 回応えた。そのうちの 1 回は、台風ヤギによる洪水被害のための支援であった。

(1)ミャンマー避難民支援（タイ・ミャンマー国境地帯）

2023 年 2 月に派遣したミャンマー難民医療支援ミッション（以下、タイ・ミッション）の現地受入先であるタイの NPO 団体 WTIND より支援要請を受けた。同団体の活動地であるタイ・ミャンマー国境地帯に逃れている避難民に対する緊急支援要請である。2021 年 2 月に始まったミャンマーのクーデターに端を発した武力紛争はさらに激しさを増して、武力紛争はミャンマー全土に及んでいる。JOCS では、理事会の協議を経て、2024 年 4 月に 2,000 米ドル（約 30 万円）、6 月に 2,000 米ドル（約 30 万円）、9 月に 5,000 米ドル（約 73 万円）、2025 年 1 月に 2,000 米ドル（約 32 万円）を支援した。WTIND の医師が中心となって医療チームを結成し、国境地帯を移動しながら診療所を立ち上げ、戦争による負傷者や病人、栄養失調状態にある乳幼児、妊婦、高齢者に対して医療・食料支援活動を実施した。支援金は主にビタミン点滴剤等の医療用品、食料品、救援物資、飲料・調理用水の購入に充てられた。

また、9月上旬に発生した台風とモンスーンの影響を受け、タイ・ミャンマー国境沿いの川が氾濫し、浸水被害が広範囲に広がり、戦争難民や避難民がいる地域にもその被害が及んだ。しかし、戦争難民や避難民には支援が届かない状況であったため、JOCSでは、理事会の協議を経て、9月に2,500米ドル（約36万円）を支援し、WTINDは被災者の救援活動を実施した。支援金は、応急処置用の医療キット、食料品、救援物資購入費用に充てられた。

* WTIND (Where There Is No Doctor) タイ北部のミャンマーとの国境に近い山岳地域にある、医師のいない村で社会活動をおこなうNPO団体

4. 国内諸活動

国際協力イベントの参加、スタンプショウの参加、講師派遣など、JOCSのミッションに共感してもらえる支援者を募るための広報活動や啓発活動を実施した。教会訪問や切手ボランティアなど一部の活動では、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症予防のため、いまだに従来の水準での活動ができていないものもある。

映像をとおして現地を紹介する、支援者向けのオンラインスタディツアーも実施した。

[4-1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動することを目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会をオンラインで4回実施した。勉強会後の派遣希望者説明会にも毎回5名前後の参加があった。

(1) 国際保健医療勉強会

将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2024年度は計4回の勉強会を開催した。「草の根の人々と共に生きる」を年間テーマとし、3回はアジアやアフリカの草の根の人々と共に生きるJOCSのワーカーの働きを紹介した。遠方参加も可能となるオンラインにて開催した。勉強会終了後は、ワーカー派遣希望者に対して森田隆事務局長が説明会をおこなった。

第1回 草の根の人々と共に生きる：パキスタンの事例

日 時：2024年6月19日（水）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者説明会）

参加者：合計19名（女性16名、男性3名） ＊うち会員1名

講 師：青木盛氏（JOCSパキスタン派遣ワーカー、医師、2007年～2014年）

第2回 草の根の人々と共に生きる：ケニアの事例に寄り添う

日 時：2024年8月2日（金）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者説明会）

参加者：合計15名（女性13名、男性2名） ＊うち会員3名

講 師：原田真帆氏（JOCS ケニア派遣短期ワーカー、特別支援教育専門家、2024年）

第3回 草の根の人々と共に生きる：タンザニアと日本の事例

日 時：2024年10月22日（火）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者説明会）

参加者：合計15名（女性10名、男性5名） ＊うち会員1名

講 師：弓野綾氏（JOCS タンザニア派遣ワーカー、医師、2015年～2018年）

第4回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日 時：2025年1月17日（金）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者説明会）

参加者：合計18名（女性14名、男性4名） ＊うち会員3名

講 師：森田隆（JOCS 事務局長）

〔4－2〕 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

使用済み切手運動や講師派遣、事務局訪問受け入れを通して、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知をし、国際協力活動に関する支援及び協働の機会を育んだ。

(1) 使用済み切手運動

使用済み切手の寄付は、団体、個人合わせて10,183件、寄付総量は、約4,800キログラムであった。集まった使用済み切手の整理は、東京事務局15名、関西事務局14名のボランティアでおこなった。使用済み切手に加えて収集している書き損じハガキの寄付は、約24,500枚、外国コインの寄付は約1,300キログラムであった。

また、東京都立産業貿易センター台東館にて実施されたスタンプショウ「STAMP－SHOW2024」（2024年4月26日）に参加した。

(2) 講師派遣プログラム

JOCSの活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体（16団体）に講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
5月	大阪保育福祉専門学校
7月	関東学院中学校高等学校 堺川尻教会教会学校 北はりま特別支援学校

10 月	東北学院榴ヶ岡高等学校 福岡女学院中学校・高等学校 関西学院大学
11 月	武庫之荘教会 戸山教会附属戸山幼稚園
12 月	恵泉女学園中学・高等学校 玉成幼稚園 同仁美登里幼稚園 茨城キリスト教学園高等学校
1 月	土浦めぐみ教会附属マナ愛児園 聖隷クリストファー大学
2 月	六角橋教会

(3)事務局見学受入

JOCS の活動や使用済み切手運動を学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなっている。今年度は1団体の訪問があった。

＜東京事務局＞

7 月 恵泉女学園中学・高等学校

(4)国際協力イベント参加

グローバルフェスタ JAPAN2024

日 時：2024 年 9 月 28 日（土）、9 月 29 日（日）

場 所：新宿住友ビル三角広場（東京都新宿区）

展示内容：使用済み切手貼り絵、活動写真パネル

来場者（オンライン含む）：推定約 74,000 名（主催者発表）

内 容：使用済み切手の収集家が作成した切手貼り絵や JOCS の活動写真パネルを展示し、使用済み切手運動や JOCS の活動を紹介した。

(5)ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。

JANIC では、3つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」に参加している。「公益法人に関する NGO 連絡会」は対面とウェブ会議のハイブリッド開催とし、2025 年 4 月 1 日に施行される「公益社団法

人及び公益財団法人の認定等に関する法律の一部を改正する法律」に関する学びやガバナンス強化のための意見交換をした。「組織マネジメント」には世話人として関わり、コンプライアンス、就業規則、人事評価に関する情報交換をした。「広報担当者グループ」ではウェブ上での意見交換をおこなった。

カンボジア市民フォーラムでは、森田隆事務局長が2019年度から共同代表（現幹事）の任務をおこなっている。

長年JOCSが加入していた「障害分野NGO連絡会（JANNET）」は、2024年6月21日の総会をもって退会した。

「NGO非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指すNGOの緩やかなネットワーク）には呼びかけ人として関わった。『『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！』連絡会』の活動に賛同して呼びかけ人を務めた。

「NGO共同声明・要請への賛同手続きガイドライン」を理事会で定めた。NGO共同声明やNGOによる日本政府等に対する要請への賛同の方針を、「JOCSの『基本方針』、日本国憲法前文及び第9条の趣旨と一致し、国際協調主義・平和主義を求める声明・要請であること」とした。2024年度に賛同した声明・要請は次のとおりである。

2024年5月28日 ICCの独立性を守るために日本政府に行動を求めるNGO共同書簡

2024年10月1日 要請書：ミャンマーで困難な状況にある人びとに確実に届く国際協力を求めます

2025年3月22日 ガザの恒久的停戦と、パレスチナの和平を求める声明

(6) 地区JOCS オンライン全体ミーティング

2025年2月15日（土）に開催を予定していたが、申し込みがなかったため開催しなかった。

(7) 地区ボランティア活動協力

日本各地でJOCSを支援するために自主的な活動をおこなっている団体に、広報活動の面から協力した。

(8) 創立60周年記念事業

創立60周年事業の一環として、海外の活動を紹介する映像を作成した。ネパール・タレンセン病院での元奨学生働きを取り上げた。2025年3月に完成した。

(9) 使用済み切手運動60周年記念事業

使用済み切手運動60周年を記念し、より多くの人が使用済み切手収集による国際協力活動に参加してもらえるよう、啓発のためのポスターを制作した。制作したポスターは、過去数年間に使用済み切手を寄付してくださった団体、学校等に配布した。

(10)オンラインスタディツアー

支援者が実際に現地を訪問して現地の様子を知る機会は限られている。そこで、支援者がオンライン上で説明を受けながら現地の動画映像を見ることで、現地の様子を知る機会を設けた。

日 時：2024 年 4 月 24 日（水）11：00～12：00 参加者 42 名

内 容：JOCS の活動地を訪ねるオンラインスタディツアーと題して、映像を解説とともに流し、現地での活動やそこで働く人々を紹介した。タンザニア・タボラ州を 2023 年 9 月に訪問したスタディツアー時に撮影した、雨宮春子元ワーカーの活動地の聖ヨハネ・パウロ 2 世病院、タンザニアの協力団体であるタボラ大司教区保健事務所（TAHO）、TAHO 傘下の保健医療施設（聖アンナ・ミッション病院、イゴコ診療所）の映像を用いた。多くの映像をとおして活動地の様子、現地の食事や人々の生活を知ること、JOCS の活動地の一つであるタボラをより深く知ってもらう機会となった。

[4 - 3] マーケティング

会報誌「みんなで生きる」は例年どおり 6 回発行した。キリスト教書店での広報活動や、奨学生やワーカーの働きを紹介する雑誌広告など、新規支援者を得ることに実績がある活動を、引き続き実施した。オンラインマーケティングにも注力した。

(1)会報誌『みんなで生きる』

発行回数：年 6 回（偶数月 10 日）

発行部数：通常号 4,000 部

6・7 月号（簡易版）：9,600 部

体 裁：A4 判。4 ページ（6・7 月号）、12 ページ（4・5 月号、8・9 月号、10・11 月号、12・1 月号、2・3 月号）。

送付先：会員と年額 1 万円以上の寄付者等。ただし 6・7 月号は年次報告書と合わせて全支援者に送付した。

特集記事：4・5 月号 タンザニア 雨宮春子短期ワーカー活動報告

6・7 月号（簡易版のため特集記事はなし）

8・9 月号 ケニア 第二期シロアムプロジェクト活動報告

10・11 月号 タンザニア活動報告

12・1 月号 JOCS につながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3 月号 使用済み切手収集活動 60 周年

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、地区 JOCS からの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に 100 人の会員を抽出し、往復ハガキでアンケートを送付した。毎回 30 通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随

時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏



(2) 年次報告書

2024年6月に、2023年度（2023年4月～2024年3月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCSの活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、海外事業を紹介するページでは、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクト、災害救援復興支援に関わる現地の人々の声を掲載した。支援者の声では、JOCSをご支援くださる個人や団体の声の他、JOCSを支援する理由やきっかけを問うアンケートを3名の会員に依頼し、回答を掲載した。例年通り、会報誌6・7月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。



発行回数：年1回（6月10日発行）

発行部数：11,000部。発送数は約8,700部

体裁：A4版。20ページ

送付先：全支援者

評価：同封したアンケートのうち約410通が返信された（回答率5.0%）。2023年度のアンケートに対して、回答率が3.4%ポイント上がった。回答率が上がった要因は、第6回海外保健医療協力者会議に向けた支援者アンケートを年次報告書のアンケートと兼ねて実施し、料金受取人払い封筒を同封したことによる。印象に残った記事として「ワーカー派遣」「奨学金支援」が多く挙げられた。

(3) プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、以下のプレスリリースをおこなった。

- ・「6月20日は世界難民の日：ミャンマーからタイとの国境地帯に避難した人々への医療支援」 リリース日：2024年6月20日
- ・「日本キリスト教海外医療協力会が遺贈寄付の受け入れを強化 専門機関と協力体制の構築へ」 リリース日：2024年12月4日

(4) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号（6月発売）と1月号（12月発売）に1ページ広告を掲載した。7月号ではネパールのワーカー派遣と奨学金支援について、1月号ではウガンダのJOCS奨学生の働きについて紹介した。

『婦人之友』誌1月号（12月発売）に資料請求ハガキを付けた1ページ広告を掲載した。タンザニアのJOCS元奨学生の現在の働きを紹介した。この広告を見て1名が入会した。

カトリック新聞 2024年9月29日号の「世界難民移住移動者の日」特集に広告を掲載した。ミャンマー避難民支援の活動を紹介し、JOCSへの支援を訴えた。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・書籍購入者全員へのチラシ配布（東京・大阪・通販）。チラシ約20,000枚を配布した。24名から資料請求があり、そのうち6名が入会し2名から新規寄付があった。
- ・お茶の水店（東京、2024年10月19日）と梅田店（大阪、2024年12月7日）の店頭で活動紹介イベントを実施した。2019年に開催して以来の対面イベントだった。2日間で40名にJOCSの活動を紹介した。

仙台市のキリスト教書店「エッサイの木」と、前橋市のキリスト教書店「前橋ハレルヤブックセンター」が、購入者へのチラシ配布にご協力くださった。

(6) 教会訪問

新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、礼拝・ミサ等の集会は時間短縮の対策を続けている教会が多い。そのため、教会の事情に配慮しながら、主に関東・静岡県教会に活動報告会開催を働きかけた。5件の活動報告会申し込みがあり、7名の入会者を得ることができた。

(7) 募金

2024年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2024年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	8,685件	1,749件	20.1%	24,435,115円
冬期募金	10,271件	3,850件	37.5%	62,751,165円
その他の募金	—	—	—	5,151,241円
国別指定	—	—	—	326,000円
奨学金指定	—	—	—	12,510,950円
海外保健医療協力指定	—	—	—	11,500,000円
災害救援復興指定	—	—	—	570,000円
海外派遣指定	—	—	—	0
管理費指定	—	—	—	250,000円
総計	—	—	—	117,494,471円

夏期募金は、例年通り、6月発送の年次報告書と「みんなで生きる」6・7月号に募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、バングラデシュの岩本直美ワーカーの活動を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で1名、冬期募金で10名が寄付者から会員へ移行した。冬期募金の趣意書を過去1年間の新規使用済み切手協力者1531名に送付したところ、3名が入会、40名から新規のご寄付があった。過去7年以内に寄付歴のないキリスト教学校142校に冬期募金の趣意書を送付したが、新規のご寄付はなかった。一般寄付のほか、奨学金指定、国別指定等の寄付が集まった。



(8) 遺贈

遺贈寄付のパンフレットを改訂した。高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に、資料請求ハガキつきの3ページ広告を掲載した。『明日の友』読者4名から資料請求があった。また、年次報告書、冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が18名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が1件あった。また、銀行との間で遺贈寄付に関する協定を締結し、プレスリリースした。

2024年度は遺贈が2件、相続財産の寄付が3件あった。

(9) オンラインマーケティング

ワーカーと共に活動する現地の人々や奨学生の活躍などをホームページ来訪者に伝えることができるよう、ホームページの最新ニュースの更新を定期的におこなった。

より多くの潜在的支援者にリーチできるよう、SNSでは、Facebook、ツイッターに加えてインスタグラムのアカウントを開設した。

また、Googleの非営利団体向けプログラムを活用して、ターゲットに応じたキーワード選定や見直しをおこなった結果、海外事業に関するキーワード検索からのJOCsのホームページへのアクセスが高まった。

5. 運営体制

6月の社員総会で役員が改選され、新しい体制での運営がスタートした。

各種会議はオンライン会議システムも活用したハイブリッド開催とした。その結果、理事会と委員会はコロナ禍のころに比べて対面で参加する機会が多くなり、活発な意見交換が可能となった。また、海外保健医療協力者会議の実施のために、準備委員会がオンライ

ンおよび対面での協議を毎月実施し活発な議論をした。

[5 - 1] 社員総会

2024 年 6 月 8 日（土）午後 2 時から、東京都千代田区にあるお茶の水クリスチャン・センター会議室にて、第 63 回定時社員総会を開催した。社員総数 252 名のうち、出席者は、会場出席者 32 名、委任状 135 名、書面による議決権行使書の提出 24 名、計 191 名であり、決議に必要な三分の二の出席をもって成立した。総会では、まず、2023 年度事業報告がおこなわれ、議事である 2023 年度決算報告、理事および監事の選任、定款変更、会員規程改定が承認、決議された。議案審議の終了後には、2024 年度事業計画、2024 年度収支予算について説明がなされた。

議事に先立ち、日本基督教団 柏明史牧師の「まことの美しさ」と題した礼拝メッセージを聞く機会も持った。

[5 - 2] 理事会

定例理事会、電子メールによる臨時理事会（決議の省略）を、以下の日程、場所で開催した。定例理事会は、対面とオンライン会議システムを併用したハイブリッド形式でおこなった。

2024 年	4 月 20 日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)
	5 月 28 日	電子メールによる第 1 回臨時理事会（決議の省略）
	6 月 8 日 定時社員総会前	お茶の水クリスチャン・センター 416 号室
	6 月 8 日 定時社員総会后	お茶の水クリスチャン・センター 416 号室
	8 月 3 日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)
	8 月 15 日	電子メールによる第 2 回臨時理事会（不成立）
	9 月 21 日	早稲田奉仕園 101 会議室 (オンライン会議システム併用)
	10 月 1 日	電子メールによる第 3 回臨時理事会（決議の省略）
	11 月 30 日	日本基督教団 A 会議室 (オンライン会議システム併用)

2025 年 1 月 18 日 早稲田奉仕園 222 会議室

3 月 8 日 日本基督教団 A 会議室
(オンライン会議システム併用)

3 月 22 日 電子メールによる第 4 回臨時理事会(決議の省略)

2024 年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎(会長)、大友宣(常務理事)、植松功、小宅泰郎、杉村恵子、中寫裕一
名取智子、東岡牧、平本実、森田隆

監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5 - 3] 委員会

(1)財務委員会

委員長：中寫裕一

副委員長：吉川彰

委員：大友宣、古中大輔、石金祐実(事務局)、飯田多香子(事務局)、
小池宏美(事務局)

第 1 回委員会はオンライン、第 2 回委員会は対面にて協議した。例年と同じように、委員長、副委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、予算が適切に執行されていることを確認した。

収益見込みと費用の変更に対応するため、2024 年 11 月に予算の補正を協議して調整し、会長および常務理事に提出した。

会計責任者が立案した 2025 年度予算案は、2024 年度決算見込みを確認の上で、2025 年 2 月に協議して調整し、会長および常務理事に提出した。

(2)奨学金委員会

委員長：柳澤理子(2024 年 6 月理事会まで)、小宅泰郎(2024 年 6 月理事会から)

副委員長：小宅泰郎(2024 年 6 月理事会まで)、柳澤理子(2024 年 8 月委員会から)

委員：澤田和美(2024 年 8 月理事会まで)、霜越多麻美、細谷たき子、
宮崎雅(2024 年 8 月理事会まで)、吉松昌司(2024 年 9 月から)、
石金祐実(事務局)、滝澤さおり(事務局)、村田素子(事務局)

1) 2024 年度奨学生選考

委員会での協議の結果、申請のあった 6 ヶ国 45 名のうち、27 名を採用した。採用結果について理事会に答申し、全員承認された。

対象国	2024 年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	3 名	2 名
カンボジア	1 名	1 名
ネパール	9 名	8 名
ウガンダ	18 名	9 名
ケニア	2 名	2 名
タンザニア	12 名	5 名
合 計	45 名	27 名

2) その他の協議

対象国の協力団体からの現状の聞き取り、奨学生の支援状況、奨学金事業国別方針を踏まえ、2025 年度の奨学金事業の協力団体について検討し、理事会で承認された。

円安などの影響により奨学金額が増加傾向にあることを踏まえ、採用実績に基づいて新規採用予算額の見直しを実施し、理事会で承認された。

(3)地区ボランティア活動委員会（2024 年 6 月理事会まで）

委員長：東岡牧

副委員長：久保礼子

委員：川島泉、土居弘幸、宮川眞一、高橋淳子（事務局）

オンラインでの委員会を 1 回開催した。日本各地の JOCS 支援者（グループ）による自主的活動をさらに促進する方策を協議した。

(4)JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会

委員長：大友宣

委員：雨宮春子、川島泉、齊藤実、佐藤陽太、城田ふみ、山田千晴、弓野綾、
村田素子（事務局）、森田真実子（事務局）

陪 席：畑野研太郎（会長）、森田隆（事務局長）

第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議開催に向け、本会議で話し合うべきテーマ、参加メンバー、スケジュールを検討するため、オンラインで 10 回、対面で 2 回、計 12 回の協議をおこなった。準備委員会で世界および日本の草の根の人びとのニーズに耳を傾けるため、外部から国内外で活躍する 3 名の講師を招き、講演をお願いした。

また本会議終了後に、今後に向けての振り返りのためオンライン協議を 1 回おこなった。

[5 - 4] 第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議

第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議を以下のように開催した。

会議名通称：ネクステ（Next Step）会議

日時：2024 年 11 月 9 日（土）～ 10 日（日）1 泊 2 日

場所：L Stay & Glow 南砂町（東京都江東区）

目的：(1) 神様の声と、世界および日本の草の根の人びとのニーズに耳を傾け、今後 JOCS が担うべき使命（ミッション）および方向性（ビジョン）を明らかにする。

(2) JOCS の使命を話し合う中から明らかになった、現在 JOCS が直面している最も重要な課題・問題点について掘り下げ、その解決の方向性を明示する。

参加者：32 名（理事、職員、準備委員、ワーカー、およびゲスト）

協議テーマ：JOCS の支援に関わる人「理解者」「賛同者」「同労者」「協力者」

次世代につなぐ JOCS の活動

わくわくする JOCS の 10 年後

JOCS の未来に向けて ～変えてはいけないこと、変わるべきこと～

プログラム概要：協議、報告、開会・閉会礼拝、および奨励と祈り

[5 - 5] 事務局

2024 年度は東京事務局は 10 名、関西事務局は 1 名の職員体制であった。東京事務局はテレワークも一部残し、2023 年度に引き続いて 7 割程度の事務所勤務率とした。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

マーケティング主任 高橋淳子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、滝澤さおり、
竹内里佳（4 月下旬～産休・育休）、村田素子、森田真実子

関西事務局 江川由美

6. 社員会員・サポート会員の現状報告

2025 年 3 月 31 日現在

社員会員	246 名
サポート会員	2,604 名
合 計	2,850 名

2024 年度中の社員会員、サポート会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	0 名
(2) サポート会員から社員会員となられた方	2 名
(3) 社員会員を辞し、サポート会員となられた方	4 名
(4) 退会された方	8 名

2. サポート会員

(1) 新たに入会された方	83 名
(2) 退会された方	256 名

7. 2024 年度の主な動き

- 2024 年 4 月 16 日 地区ボランティア活動委員会
18 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
20 日 定例理事会
- 5 月 21 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
28 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
- 6 月 8 日 定例理事会
8 日 第 63 回定時社員総会（お茶の水クリスチャン・センター会議室）
18 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
23 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
- 7 月 11 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
- 8 月 3 日 定例理事会
6 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
15 日 電子メールによる臨時理事会（不成立）
31 日 奨学金委員会
- 9 月 10 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
21 日 定例理事会
22 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
- 10 月 1 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
8 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
31 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
- 11 月 6 日 財務委員会
9 日～10 日 第 6 回 JOCS 海外保健医療協力者会議
19 日 JOCS 海外保健医療協力者会議準備委員会
30 日 定例理事会
- 12 月 14 日 奨学金委員会
- 2025 年 1 月 18 日 定例理事会
- 2 月 8 日 財務委員会
- 3 月 8 日 定例理事会
- 3 月 22 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-51

TEL : 03-3208-2416 FAX : 03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町 2-30

大阪聖パウロ教会 3 階

TEL : 06-6359-7277 FAX : 06-6359-7278

URL <https://www.jocs.or.jp>